

2012~2013年度 建築歴史・意匠委員会活動報告

2014年3月18日

日本建築史小委員会

主査:清水重敦

目的:日本建築史研究の発展及び歴史的建造物保存のための情報の交換、そのためのシンポジウム開催を主たる目的とする。

2012～2013年度の主な活動

連続シンポジウム“日本建築様式史の再構築”の開催と報告書の刊行

(科学研究費補助金・基盤研究A「日本建築様式史の再構築」(研究代表者:藤井恵介)と共催)

シンポジウム

「建築様式史研究」を越えて:西欧・日本・アジア(2012年11月17日開催)

報告書の刊行

『江戸大名屋敷作事記録を読む』、『中世建築における様式研究の再考』、

『東アジアの宮殿建築と儀式』、『寝殿造と書院造の間』、『「建築様式史研究」を越えて』

日本建築史に関する若手研究会開催のための準備

※2013年度は、年度途中で主査が交代したため、引き継ぎと新規活動の準備に留まっている。

西洋建築史小委員会の概要

2014.3.18
於：学術推進委員会
建築歴史・意匠委員会

目的

若手研究者の育成・強化
日本における西洋建築史研究のあり方の検討
国際交流の推進
『図集』のメンテナンスとその新たな展開の検討

主査：中島智章
委員12名

最近の活動

上記目的達成のための具体策の検討・実施
第3回若手研究者研究発表会開催(右図参照)
海外研究者との交流関係に関する情報交換
新訂『西洋建築史図集』案の検討・WGの結成
情報公開のための小委員会ウェブサイト構築

今後の活動

上記目的達成のための具体策の検討・実施
第4回若手研究者研究発表会の企画・実施
海外研究者との交流の公開に向けての検討
新訂『西洋建築史図集』の具体案作成

第3回西洋建築史若手研究者研究発表会

ルネサンス期の都市と建築を考える ～理想都市と築城をめぐる～

ルネサンス期の都市と建築の諸相は、近代のはじまりという時代精神の表れとして、これまでも広く研究されてきた。この時代の都市計画や築城術は当時の建築技術や建築家たちによる合理的で効率的な思考によって文字通り計画されるようになった。都市はますます整頓な城壁で囲われるようになり、住民や領土の安全が守られようとしたとともに、利便性や公衆衛生、美的要素など様々な要素が都市空間に考慮された。人間社会にふさわしい都市空間として何が必要かというそうした理想都市の志向は、根幹的には現代にも通じるものといえるだろう。人間社会の礎としての都市はしかし、科学的で合理的な思考のみにより捉えられようとしたわけではなく、そこには新しい知識と技術を直感的に操作しようとする人間の自然な感情も垣間見られる。本研究発表会では、都市空間や建築の役割、城塞のあり方を再編していくこととするルネサンス期の理想都市と築城をめぐる、そうした重層的な解釈を再確認するとともに、この時代の都市や建築を研究する現代的意義についても議論を深めたい。

プログラム

趣旨説明	加嶋章博 (小委員会幹事/摂南大学)
1. 理想都市・イタリア	岡北一孝 (京都市芸繊維大学)
理想都市としてのローマ — 教皇ニコラウス五世のローマ都市計画 —	
2. 理想都市・スペイン	加嶋章博 (前掲)
16世紀スペインの理想都市計画 — 植民地の都市計画理念に見られる均質性と多様性 —	
3. 築城・イタリア	白幡俊輔 (関西学院大学)
15-16世紀イタリアの軍事技術と理想都市 — シエナとフィレンツェの建築家を中心に —	
4. 築城・スペイン	高柳伸一 (大同大学)
主要な工兵の活動からみた16世紀後期スペインの要塞化事業 — 地中海から大西洋へ —	
質疑・討論	
総括	中島智章 (小委員会主査/工学院大学)

主催：日本建築学会 西洋建築史小委員会
共催：日本都市計画学会 地中海アーバンニズム研究会
日時：2013年12月21日(土) 13:00～17:00
会場：京都工芸繊維大学・工織会館・1階・多目的室
(住所：京都府京都市左京区松ヶ崎鞍馬田町15-1/市営地下鉄烏丸線「松ヶ崎駅」から徒歩約6分)
資料代 1000円 (当日お支払いください)
申し込み方法：当日先着順、定員60名
問合せ：摂南大学 加嶋章博 Email: kashima@arc.setsunan.ac.jp

東洋建築史小委員会

主査: 重枝豊

目的: 継続的な情報収集と東洋建築史図集の改訂

設置目的

- ・東洋建築史学の方法論の研究
- ・東洋建築史学の教育・研究および専門家育成に関する継続的な情報収集
- ・東洋諸国における建築的遺産の保存と修復に関する調査研究とそれらの情報収集(基礎的な資料のデータベース化)および国際協力への寄与
- ・研究成果の公表(シンポジウムおよび公開研究会の開催と記録の刊行等)など
- ・東洋建築図集の改訂

委員会の開催

1. 第11回若手研究者による公開委員会(5/9) 参加者数 14 名
加藤直子氏「ガンダーラ仏教建築におけるストウーパの形態に関する研究」
2. 第12回若手研究者による公開委員会(7/18) 参加者数 10 名
川本智史氏「トプカプ以前—15世紀エディルネ旧宮殿とオスマン宮殿様式の発展」
3. 第13回若手研究者による公開委員会(10/12) 参加者数 13 名
鈴木環氏「オスマン朝影響下のバルカン半島における教会・修道院建築とその保存修復」
4. 第11回若手研究者による公開委員会(3月中予定) 交渉中

主査の長期のわたる体調不良により小委員会の開催に滞りが生じた。
3月中に小委員会を開いて主査の変更及び委員の交代等を審議する。

民家小委員会

主査: 土本俊和

目的: 民家の調査研究から集落・都市の未来を模索していく

- ① 建築史: 民家の成立過程
民家史研究の再構築
- ② 方法論: 文献、フィールド、ヒアリング
- ③ 体系化: 専門的な検証
組織的な蓄積と体系化
- ④ 継承 : 地域文化の継承と育成
人的ネットワークの構築
- ⑤ 発展 : 民家から未来へ
いえづくり、まちづくり
景観形成、安全安心



長野県飯山市小菅の民家と祭礼

- 新活動A: 民家と里山林
—構成材の樹種判定—
- 新活動B: 民家と文化的景観
—無形文化財と集落—
- 新活動C: 民家の架構の再検討
—棟持柱構造—

平成25年度は、第1回委員会(2013.8.31)では、「附属屋がうごかす民家の歴史」について、討論をおこなった。第2回委員会(2013.11.9.)では、「民家とその付属屋とふくめた保存・利活用」について、討論をおこなった。また、民家研究文献目録リストを刷新した。

近代建築史小委員会

2014.3.18
歴史・意匠委員会

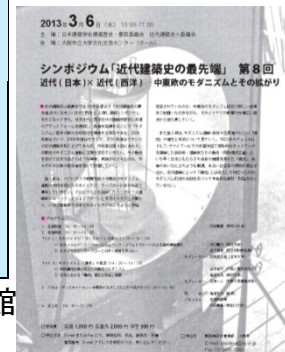
主査:西澤泰彦 (委員15名)

目的:近代建築史研究の発展のための
意見交換や共同研究を進めるとともに、
近代建築の保存・活用問題に取り組む。

最近の活動

- 1)シンポジウム「近代建築史研究の最先端」開催
第8回(2013.3) 第9回(2014.2)
- 2)近代建築史研究の普及のための市民啓発
赤煉瓦ネットワーク全国大会参加(2013.11)
- 3)近代建築の保存・再生情報収集のための交流
見学会(関西地区:2013.2、関門地区:2013.11)
⇒建物所有者、市民、工事関係者との意見交換

近代建築史研究の
情報交換



第9回シンポジウム

今後の活動

保存・再生の問題点と
今後のあり方を検討

2)近代建築の保存再生活用情報の収集

近代建築史研究の
深化と再構築

1)最新の研究成果の発表

3)委員相互の研究情報交換

4)国際交流の推進



旧宮崎商館
(下関市)

建築論・建築意匠小委員会

主査:西垣安比古

目的:(1)日本および海外の建築論・建築意匠に関する研究の持続的収集(基礎的な文献資料のデータベース化)

(2)建築論・建築意匠論研究の方法論の研究

(3)学際的、国際的研究交流(公開研究セミナーの開催)

(4)研究成果の公表(公開研究会の記録の刊行)

委員会開催:2回/12年度、1回/13年度

刊行物:『建築論事典』初版改訂2刷/09年度

催し物:1.『建築論の現在』第13回「カタストロフィーと建築論」参加者数40名/12年度

2.『建築論の現在』第14回「増田友也 — その建築作品の世界」参加者数未定/13年度

大会研究集会:研究協議会『丹下健三の世界再読——丹下健三生誕100年記念』
13年度

目標の達成度:1. 研究情報の収集は『事典』改訂などにより着実に成果を示あげた。
2. 方法論の研究、研究交流は小委員会、連続セミナー開催により成果をあげた。
3. 研究成果の公表は連続セミナー、大会催事とその資料刊行によって成果をあげた。

建築アーカイブズ小委員会

2014.3.18
於：学術推進委員会
建築歴史・意匠委員会

主査：山名善之 目的：建築史資料の収集・整理・保存・公開のための
他委員13名 「建築アーカイブズ環境」の整備に関する調査と交流の促進

2012～2013年度の活動

2012年度6回・2013年度5回開催/
2013年度のうち2回は良質な建築ストック形成検討小委員会との合同委員会会議として開催

建築学会内における建築アーカイブズの位置づけの検討と近現代建築資料館との連携

- 2012年度 (1) 建築資料の取り組み活性化のための委員の拡大
(2) 近現代建築資料館設立を受けた、連携のあり方の検討

2013年度

- (1) 文化庁委託事業「我が国の近現代建築資料所在情報の概要把握と管理情報方法の提案」を受け、歴史・意匠本委員会下に設置された近現代建築資料全国調査特別WGへの参加
(2) 良質な建築ストック形成検討小委員会との合同委員会を通じて、学会における建築資料の位置づけについて議論を行った。

今後の活動

国立近・現代建築資料館に対する提言へ向けての活動

- 1) 2014年度大会(近畿)で研究協議会を開催。先の文化庁委託調査の報告と、今後の近現代建築資料館のあり方についての提言の機会とする
- 2) 学会内における建築資料論の深化と、その位置づけの再検討を行う

都市史小委員会

主査：中川 理

目的

顧問8名＋委員15名

WG：「テーマ・方法論検討WG」 12名

「地域・方法論検討WG」 10名

「時代区分・方法論検討WG」10名

総合的に都市史研究を進展させるために、
方法論や情報の交換・蓄積を行うセンター機能を学会に設置する

活動内容・実績例

1) 既往研究のレビュー

例：シンポジウム「都市史研究の可能性を探る」(1999)

2) 研究会・シンポジウムの開催

例：シリーズ「伝統都市の転換期」(2002-2005) シリーズ「都市と建築」(2006-2009)

シリーズ「都市と表象」(2010-2013)

学会大会PD「日本の都市の特質」(2003)

学会大会研究懇談会「都市建築史的観点から見た中央と地方」(2009)

学会大会PD「都市と建築～その歴史的結合の解釈と方法的展開～」(2010)

学会大会PD「距離と方位から捉える都市と住まい」(2013)

3) 国際交流

例：特別講演会(外国人研究者招聘)「ニューヨークの都市住宅史」(2000)

4) 研究成果の刊行

例：シンポジウム・大会PD梗概刊行(小委員会・WG活動記録も収録)



活動予定

目標

シンポジウム・研究会開催計画

- ・シリーズ「都市と大地」(2014-2017)
第1回シンポジウム(2014年12月予定)
- ・WGを中心とする若手奨励特別研究発表会
(6回/年)

- ① 持続再生型都市の将来を 考えるための基礎資料作り
- ② 国際化社会に向けての 世界各地域の都市文化理解
- ③ 都市史の重要性の社会的発信
- ④ WG活動を通じた若手研究者育成

文化遺産災害対策小委員会

主査：大橋竜太(委員13名)

目的：災害による歴史的建造物や歴史的環境の滅失を防ぐための施策を検討する。

各年度の活動実績：

2012年度 東日本大震災で被災した歴史的建造物の調査および技術支援
(文化庁による「文化財ドクター派遣事業」(2011-13年度)に災害対策特別調査研究WGと合同で調査および技術支援に協力し、報告書を作成)
「被災歴史的建造物の調査・復旧方法の対応マニュアル」の作成
(日本建築士会連合会と協力)

2013年度 引き続き「文化財ドクター派遣事業」(文化庁)に協力
「被災歴史的建造物の調査・復旧方法の対応マニュアル」の改定
および出版の検討



典型的な土壁の被害

調査年度		調査項目										
調査年度		調査年度	調査年度	調査年度	調査年度	調査年度	調査年度	調査年度	調査年度	調査年度	調査年度	調査年度
調査年度		調査年度	調査年度	調査年度	調査年度	調査年度	調査年度	調査年度	調査年度	調査年度	調査年度	調査年度
調査年度		調査年度	調査年度	調査年度	調査年度	調査年度	調査年度	調査年度	調査年度	調査年度	調査年度	調査年度

調査シート

調査シート

歴史的建築リスト整備活用小委員会

主査:永井康雄

目的:歴史的建築に関する各種情報の集約・管理。

日本建築学会編歴史的建築総目録DBの管理・運営。

歴史的建築総目録DBを媒体とした学会・行政・市民の協働。

■2013年度大会(北海道)研究懇談会

「災害への対応と対策 歴史的建築を未来に伝えるために」を開催。

■歴史的建築総目録DBシステムにあたっての、支部連絡組織の充実と利用者増加。

ユーザー数 109名 (2012.3.1現在)→ 230名 (2014.3.1現在)

■歴史的建築総目録DBのシステム更新と、ミラーサーバーの構築

URL <http://glohb-aij.eng.hokudai.ac.jp/>

総データ数41,115件(2014.3.1現在)

クラウドサーバーに移行し、利便性向上を図った。

大規模災害に備えてミラーサーバーを設置した。

(北海道大+鹿児島大)

■「東日本大震災被災文化財建造物復旧支援事業」(文化庁・建築学会・建築家協会・

建築士会など)による被害調査で、本DBが基本台帳として活用されたが、この際の

調査結果を再度、データベースに反映中。

保存要望書の発行

提出日	テーマ	宛先
2014年02月17日	尾道市庁舎本館と公会堂の保存・活用に関する要望書(中国支部)	尾道市長
2014年01月15日	旧大阪ガス新開地ガスビルの保存活用に関する要望書(近畿支部)	大和ハウス工業株式会社 代表取締役社長
2013年12月19日	神奈川県立近代美術館の保存活用に関する要望書(会長名)	神奈川県知事
2013年08月26日	大清水多賀本店の保存活用に関する要望書(東北支部)	大清水多賀本店
2013年07月11日	京都府立鴨沂高等学校校舎の保存活用に関する要望書(近畿支部)	京都府知事
2013年04月13日	もと大阪市立精華小学校校舎の保存に関する要望書(近畿支部)	株式会社成信 代表取締役社長
2012年12月26日	香川県庁舎東館(旧本館)の保存活用に関する要望書(会長名)	香川県知事
2012年11月14日	千代田区立九段小学校校舎の保存・活用に関する要望書(関東支部)	千代田区区長, 千代田区教育委員会教育長, 千代田区教育委員会委員長, 千代田区立九段小学校・九段幼稚園校長・園長, 九段小学校幼稚園施設整備検討協議会会長・委員各位
2012年11月12日	旧大阪新歌舞伎座の建物の保存に関する要望書(近畿支部)	株式会社ベルコ代表取締役
2012年10月12日	「能代市議会議事堂」の保存に関する要望書(東北支部)	能代市長

大会研究集会

2012年度 大会研究集会

研究協議会 登録文化財の保存と活用

研究懇談会 災害と民家

- もっともながいあいだ、被害をうけてきた日本建築のなかにひそむ知恵の抽出
- PD モダニズム建築の評価 — 保存のコミュニケーションをめぐって

2013年度 大会研究集会

研究協議会 丹下健三の世界再読 — 丹下健三生誕100年記念

研究懇談会 災害への対応と対策 — 歴史的建築を未来に伝えるために

PD 距離と方位から捉える都市と住まい — どこに「都市」は成立するのか

大会 若手優秀発表

平成25年度 日本建築学会大会 建築歴史・意匠部門 若手優秀発表 要綱 <抜粋>

1. 目的

日本建築学会大会 建築歴史・意匠部門における、学生、若手研究者等の優れた発表に対し、これを顕彰し、<中略>、建築歴史・意匠分野における研究活動のさらなる発展に資する。

2. 受賞対象

日本建築学会正会員（個人）ないし準会員で、年次大会の建築歴史・意匠部門において発表を行った者のうち、発表登録時に29歳以下の学生、社会人等とする。<略>。

3. 顕彰数

受賞対象となる発表について、10件のうち1件程度の割合とする。

4. 選考委員会

5. 選考方法

(1) 審査員による評価

(2) 顕彰者の確定

6. 審査基準

7. 顕彰

結果： 被顕彰者23名